

投資事業評価調書(新規)

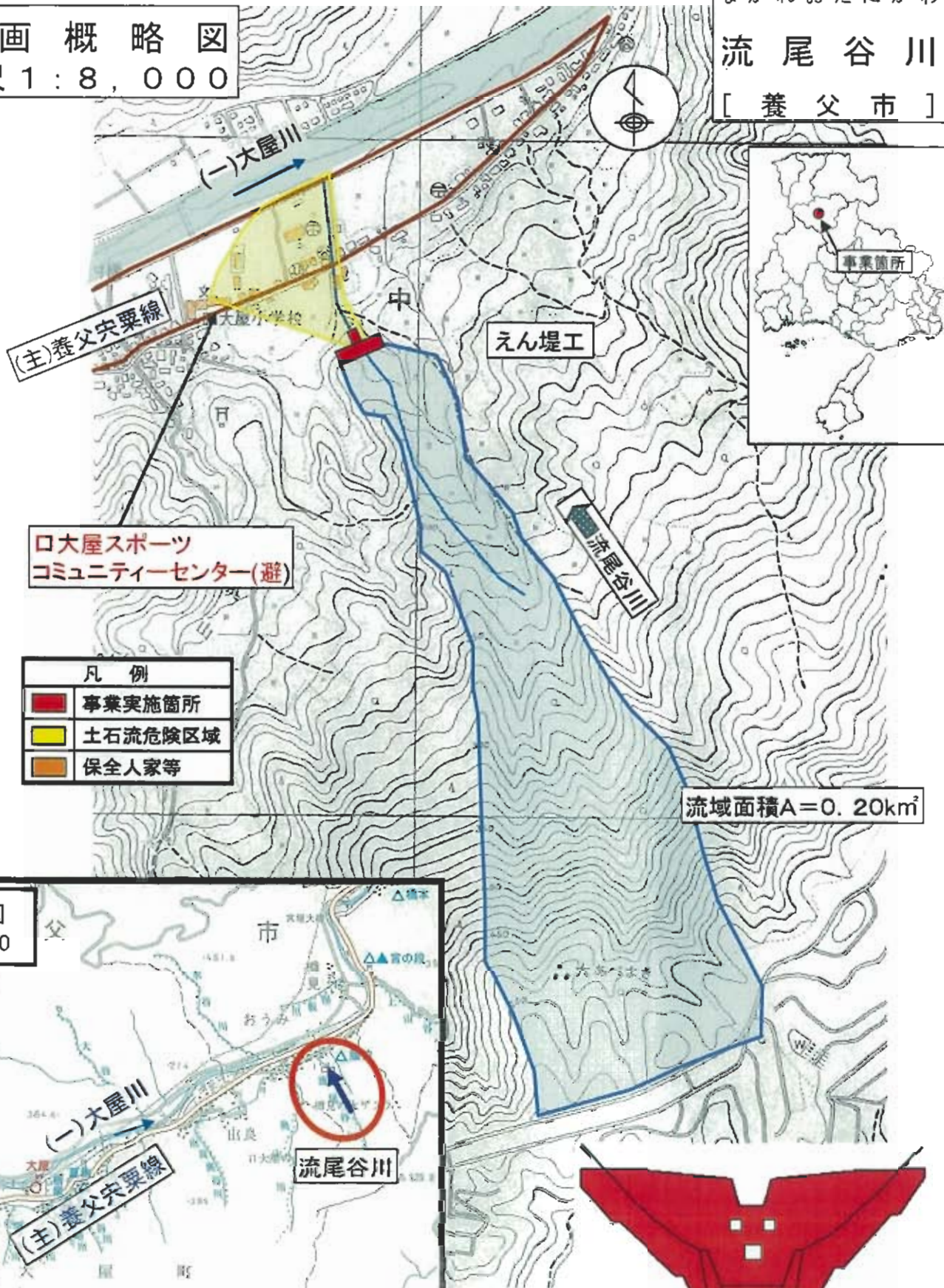
部課室名	砂防課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	砂防課長 尾崎 幸忠 (藤井 嘉彦)	内線	4459 (4465)
事業種目	砂防事業	事業名	事業区間	総事業費	1.8 億円
		通常砂防事業 <small>ながれおだに</small> 流尾谷川		内用地補償費	0.1 億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
養父市大屋町中 ^{なか}			H20	H20	H23
事業目的			事業内容		
土石流対策 ・当溪流は土石流危険溪流に該当し、溪岸の浸食が進んでおり土砂災害の危険性が高まっているため、えん堤工を設置して地域住民の人命、財産、(主)養父穴栗線、市道及び災害時の指定避難所である口大屋スポーツコミュニティセンターを保全する。			・砂防えん堤工 1基 (H = 8.0m, L = 55.0m) [負担割合 国:1/2、県:1/2]		
評価視点		評価結果の説明			
(1)必要性 安全、安心		・流尾谷川は土石流危険溪流である。 ・近年の降雨により溪岸の浸食が進み、流域内も広範囲に荒廃しているが、砂防設備は未整備である。 ・保全対象は、人家16戸、(主)養父穴栗線、市道、口大屋スポーツコミュニティセンター(避難所)などがある。 ・地元の土砂災害に対する認識度が高く、事業化への要望が強い。 ・平成19年度には土砂災害警戒区域を指定する予定であり、ソフト面からも土砂災害対策を推進する。			
(2)有効性・効率性 有効性		・人命・財産(人家16戸)、(主)養父穴栗線、市道、口大屋スポーツコミュニティセンター(避難所)を保全し、事業実施による投資効果は大きい。			
効率性		・地元からの要望が強く、市の協力体制が有るので円滑な事業執行が可能である。			
(3)環境適合性		・県道等からの視認性を考慮し、化粧型枠等により周辺景観に配慮する。また、工事による法面については緑化を図るなど環境保全に努める。			
(4)優先性		・当溪流は土砂災害緊急整備5ヶ年計画に位置付けられている。 ・土石流危険区域には人家16戸、(主)養父穴栗線、市道、口大屋スポーツコミュニティセンター(避難所)がある。 ・流域状況は荒廃が進み、土砂流出の危険性が高まっているため、中地区の人命・財産等を保全する早急な対策が必要である。			

ながれおだにがわ

流尾谷川

[養父市]

計画概略図
縮尺 1 : 8,000



口大屋スポーツ
コミュニティーセンター(避)

凡 例	
	事業実施箇所
	土石流危険区域
	保全人家等

流域面積A=0.20km²



えん堤工 H=8.0m, L=55.0m